

## 令和3年度第3回浜松市美術館協議会会議録

- 1 開催日時 令和4年3月17日(木) 午後2時から午後3時15分
- 2 開催場所 浜松市美術館 2階講座室
- 3 出席状況  
(出席委員 7人)  
会長 内田 いず美 委員 田中 裕二 委員 青木 明子  
委員 鶴田 雅之 委員 磯部 啓次 委員 山口 剛  
(欠席委員 2人)  
  
(出席者の職氏名)  
市民部文化振興担当部長 中村 公彦 秋野不矩美術館長 小木 知靖  
浜松市美術館長補佐 高山 和也 主幹 石田 博基
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 審議事項  
(1) 令和4年度浜松市美術館事業計画について  
(2) 令和4年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について  
(3) 令和3年度寄贈作品等について  
(4) その他
- 6 会議録作成者 美術館美術振興グループ 石田博基
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音有
- 8 会議録

- 1 開会 (高山館長補佐)
- 2 浜松市美術館協議会会長挨拶 (内田会長)
- 3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ (中村部長)
- 4 議題
  - (1) 令和4年度浜松市美術館事業計画について
  - (2) 令和4年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について
  - (3) 令和3年度寄贈作品等について
  - (4) その他  
(事務局から資料に基づき説明)

(質疑)

- (1) 令和4年度浜松市美術館事業計画について

委員 事業計画の中で美術館として全体の収入見込みの数字はないのか。  
また、市展は美術館主催なのかそれとも浜松市主催なのか。遠藤美香展は主催が浜松市となっているが、浜松市の場合は浜松市美術館主催という展覧会はないのか。

事務局 収入の予算なので、見込の数字ということで、ハイジ展が約1,000万円  
刀展は約1,300万円 直営の遠藤美香展は約183万円となっている。

部長 収入は入館料と物販収入となる

委員 それらは実行委員会に収入されると思うが、美術館としての貸館の収入はどうなっているか。

事務局 市が実行委員会に請求して市に収入される

委員 展覧会の入場料等は市に収入されるのか。

事務局 遠藤美香展のような直営の展覧会は市に直接入るが、ハイジ展や刀展は実行委員会形式の展覧会は実行委員会に一度入ってそこから負担金の出資割合に応じて配分される。

事務局 名義だが美術館も浜松市も同じ。実行委員会の場合は浜松市の他に共催の会社名が並ぶ。会場として浜松市美術館ということ。

委員 4番の指定管理料で7,700万円となっているが、令和3年の6,600万円と比較すると1,000万円くらい差があるが、これはどういった事か。

事務局 令和3年度については、秋美の職員の人件費は人件費の項目の5,800万円の中に入っているが、令和4年度については、7,700万円の指定管理の数字の中に積算されている。

委員 項目の1～3番は全て7,700万円の中に入っているなら、4番の中身については分からない。企画展についてはいくらとか。

事務局 4年度の展覧会の企画はこちらで企画したものなので、展覧会の経費等はつかんでいる。

委員 指定管理料として計上されているのはわかるが、それぞれの展覧会にかかる

大まかな数字は出した方がよいと思う。

委員 秋野不矩美術館の入館料は指定管理者の収入か。

事務局 所蔵品展・企画展・市民ギャラリーの収入については市の収入となる。

委員 指定期間が3年となっている。他の指定管理をみると5年が多いが、3年とした理由は。

事務局 検討段階では5年という話もあったが、秋野不矩美術館が今回指定管理に出す最初ということもあって、まず3年とした。次の段階で期間については検討する。

委員 指定管理料は毎年見直しか。それとも3年間固定か。

事務局 3年間固定

委員 デジタル運営経費のところで、ピープルカウンターの費用の話があったが、所蔵品のデジタル化・デジタル公開に関する費用は入っていないのか。

事務局 収蔵品管理システムの管理料等も入っている。

委員 博物館法の改正でデジタル化と公開という条文も新たに加わったので、この予算では心許ない。デジタル化に関する人材確保が館独自では難しいのならば、市の専門機関と連携して進めてほしい。登録博物館である浜松市美術館は、再申請も必要になると思うのでそのあたりも考えて頂きたい。

委員 特別展と企画展の違いは何か。

事務局 特別展は他都市を巡回するようなパッケージになっている展覧会。企画展は純然たる企画のほか、巡回展のなかでも少し我々の企画が入っているようなものは企画展という位置づけ。ハイジ展はオリジナルの企画展。

委員 企画展の展示内容は分かるのだが、美術館としての企画趣旨はどのようなところにあるのか。入場料を払って見ていただく意味付けは。

事務局 遠藤美香については地域ゆかりの作家。刀展は三方原合戦450年にちなんで開催し、それと併せて江戸の文化も紹介する。ハイジ展に関しては担当学芸員が他の資料を研究していく中で研究者と繋がりが出来たもの。

委員 刀展は博物館でやってもいいものでは。ここ美術館ならではのという展示に期待している。

部長 館蔵品でも刀が10振ほどあってその内1振を出展する。令和5年の頭から「どうする家康」の関係でこの辺りが盛り上がる。美術館に関してもそれに関連して盛り上げていきたい。

## (2) 令和4年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について

委員 秋野不矩美術館の人事体制はどうなっているか。

事務局 館長、学芸2名、事務職員、監視員

学芸員は日本画を専門に研究している人ということになる。

部長 全て指定管理に任せるというわけでもなく、浜松市美術館サイドでも研究とか方向性とかで連携していく。

委員 企画・特別展の企画は指定管理者の学芸員が主に行うのか。  
事務局 4年度については、指定管理者側に準備期間がないため美術館側で企画したものだが、5年度からのものは指定管理者の学芸員が企画して早い時期に市と相談することになる。

委員 指定管理者になって発想を変えた企画を期待している。  
事務局 あまり縛りをつけるのも指定管理制度の意味がないのだが、秋野不矩という冠がついているのでその中で行っていく。

委員 企画展の事業計画は分かったが、その他の事業計画はどうなっているのか。  
事務局 指定管理者側からは年度の初めに自主事業等の事業計画をもらうことになっている。

委員 こちらの浜松市美術館の展覧会以外の事業計画はどうなっているのか。  
事務局 浜松市美術館の遠藤美香展で言うと覧会会期中に延べ4回のワークショップを予定している。その他、年間を通して教育普及事業として出前講座等を予定している。予算は平常展開催事業の中に含まれる。

委員 秋野不矩美術館が指定管理になるが、運営を丸投げすることなく、設置者の責任もあるので、市の文化政策との連携やバックアップをしっかりと行ってほしい。

部長 秋野不矩美術館にいる職員は3人いるが、全員指定管理の職員に代わる。今後、浜松市美術館には秋野不矩を顕彰するということで専門の職員が就くので連携をしっかりとっていく。

### (3) 令和3年度寄贈作品等について

委員 寄贈・寄託があるかと思うが、浜松市美術館の場合は寄贈が90%となっているが、その寄贈の理由は何か。  
寄贈となると所有権はこちらになり、審査・管理が厳重になる。寄託にしておけば調査研究が終わってから返すことができる。その棲み分けは。  
事務局 持っている方の意向による。寄贈審査会の中で審査を経てということになる。寄託に関しては所有者本人の意向もあるが、研究・展示する時だけ借用するという流れになる。

委員 今後の所蔵品の定期的な展示は予定しているのか。令和4年度については見えてこないのでは是非やっていただきたい。  
事務局 企画展と併せて小展示室で館蔵品展を開催する。また刀展では2階に刀を、1階に所蔵品の展示を予定している。

委員 楽器博物館でも寄贈者はすぐ展示されるものとして寄贈してくる。寄贈される方の事を考えると、デジタルでの公開や何かしらの展示を考えていただけるとよい。寄贈の相談があるとどれくらいの頻度で断っているのか？  
事務局 電話を掛けてきて、すぐお断りする場合もあるが、写真を送付してもらい判断する場合もある。直接持ち込みされる場合もある。

委員 工芸に携わる人間として言わせてもらおうが、美術館というどうしても絵画が中心となってしまう。工芸とされるジャンルも展示していただきたい。美術館でやることに意義があるので工芸の企画展とか開催してもらいたい。

委員 収蔵作品はどんどん増えてきて、企画展・特別展に合致しない作品は展示されず、一度展示されてもしばらく展示されなくなると思うので、中長期的な話になるが、美術館のリニューアル時にはコレクションが常に展示できる常設ギャラリーの設置を望む。また美術館が閉まっている時にはまったく見る事が出来ない状態で、市民の財産である収蔵品にアクセスできないのはどうかと思う。無償で寄贈されても管理費には市民の税金がかかっている。デジタル化も含めて公開方法は早急に検討されたい。

委員 収蔵方針があるが、収蔵品を見ると雑ぱくとしている。一度見直した方がよいのではないか。これだと市に関係した人が描いた絵という事でみんな持ってくる。もう少し浜松市の美術史の中で、こういう人達が関係しているから、美術館としてこういうものを収蔵していくというものを作った方がよいかと思う。

部長 特に（２）の「郷土に関係のある」のところだが、民藝展とかもやっていて情報として蓄積があるため、そのような事が分かるようになればいい。

#### （４）その他

事務局 以前、ホームページで過去の展覧会情報が見れるようにした方がよいと話があったが、現在、ホームページのトップの下の方に、とりあえず平成２７年から令和３年までの展覧会情報になるが、閲覧できるようにしてある。チラシや目録等をリンク付けする作業を順次行う。

委員 フェイスブック・ツイッターを行っているということでフォローしているが、もう少し工夫された方がよい。何を目的にやっているのか。

事務局 美術館に来る人達は高齢者ばかり。いかに若い人たちに来てもらうかが課題であり、我々には次世代に繋ぐという使命がある。美術館に直接関係ないような情報も含めて面白く情報発信するようにしている。

委員 今、桜の時期だが、公園に来て美術館が開いていない。非常にもったいないと思う。

事務局 昨年は年度を跨いで開催したが、今年はそのような予定ではない。

委員 文芸大の学生でフェイスブックのライティング等出来る人がいないか。

委員 文芸大にも学生記者が居て、学生目線で広報している。若者向けであったら若者にやってもらった方がよいと思う。

部長 こういうのを得意とする人はたくさん居る。そういう人達と協力してできればいいと思う。